

避難所に 段ボールベッドを



石内 國雄



町長

エアマット200枚を
備蓄している



避難所用の段ボールベッド

質問 9月に入り、台風等災害の発生する時期になってきている。災害対策における避難所の整備体制や拡充が不可欠と考える。

質問 コロナ禍における3密対策と避難所の整備体制は。

答弁 町長 避難所での感染を防ぐために、避難時の検温や体調チェックを行うとともに、ソーシャルディスタンスに配慮した避難所のレイアウトを検討した。

質問 水害避難で長期滞在する場合、段ボールベッドは、避難所全体の安全上必要であり、感染症対策として必要だと考えるが。

答弁 町長 長期滞在に備えて段ボールベッドの代わりとしてエアマットを200枚備蓄しており、停電対策として非常用蓄電池を10台用意している。

事業者へのコロナ禍対策は

質問 特に3密にならざるを得ない事業である、保育所・児童館・放課後児童クラブ・障がい者福祉施設・介護事業・医療等への対策に積極的に取り組むべきだ。これらの事業従事者に対して、PCR検査等への補助を町から行っているかどうか。

答弁 町長 検査に対する町からの補助については、検査体制の整備を含めた費用対効果や現在の感染症対策と比較し

て有効かどうかの情報を確認し、慎重に判断する必要があると考える。

質問 利用者の不安を払拭する意味でも必要と考えるがどうか。

答弁 町長 世田谷区のようなPCR検査への踏み込みも考える時期が来るかもしれないが、費用負担や病院の受入れ体制も踏まえる必要がある。

現金紛失の対応について

質問 町民が抱いてしまった町行政への不信感を町民にどう説明し、払拭していくのか。

答弁 町長 今回の事案については町民の関心も高く、町に目が向けられていることは承知している。現在も警察の捜査が続いており、捜査の行方を見守っていききたい。

答弁 町長 実態の把握や科学的・医学的見地の裏付けがまだない中で、町レベルで方針を出すのは難しい。今のところ出せる状況ではないと考えている。

コロナ感染対策へ 町の方針を出せ



小林 一幸



町長

今出せる状況にはない



医療・福祉従事者に支援を

質問 医療・福祉事業所及び従事者に対して町の支援は。

答弁 町長 玉村町新型コロナウイルス対策会議を町内感染者が発生する前から開催しており、発生時の町の対応、情報公開、町内各施設の利用等の検討をするともに、国の臨時交付金や独自財源を活用した各種事業により、特定の事業所等に限らず支援に取り組んできた。

答弁 町長 医療・福祉事業所及び従事者のみならず、広く町民に向けてできる範囲の支援、情報発信を行っている。

質問 玉村町新型コロナウイルス対策会議の構成員は。

答弁 町長 健康福祉課長、町長、副町長、教育長、各課長、玉村消防署長の合計18名で構成している。

質問 医療や福祉等の外部の人間をオブザーバーとして参加させる判断はなかったのか。

答弁 健康福祉課長 新型インフルエンザ等対策行動計画で決まっている構成員とした。

質問 5月に福祉事業所に対して行ったメンタルヘルスのアンケート調査の時期は適切だったと思うか。もっと早くに実施すべきではなかったか。

答弁 健康福祉課長 適切だったかどうかはわからない。大変な時期のアンケート調査は心苦しいと感じ、この時期となった。

質問 新型コロナウイルス感染防止、不安・差別に対する町の対応方針を出すべきだ。

災害発生時に向けた町の取組について

質問 地域防災計画や水防計画に感染症対策を盛り込む予定はあるか。

答弁 環境安全課長 今後の改定に盛り込んでいく。

質問 両計画について策定以来見直しはされているか。

答弁 環境安全課長 両計画とも見直しはされていない。新型コロナウイルスや昨年の台風19号等、策定してから状況の変化があるので、改定していきたい。

こんな質問もしています

・役場内の現金紛失に対する対応状況について